

## ~~~~~ 用務員室のチューリップ ~~~~~

卒業式の2日後の朝、ショートホームルームへと急ぐ1・2年生の担任の先生を見送りながら、廊下をブラブラ歩いていたら、用務員さんに声をかけられた。

「あの・・・、先生は3年7組の担任でしたよね・・・」

ドキッとした。こういうふうに彼に声をかけられたときは、たいてい口なことではないのだ。僕のクラスだった生徒が、きつとトンデモないことをしたのだ。

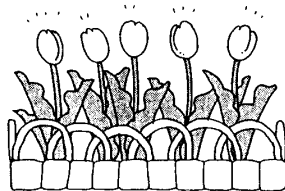
「ま、また何かやらかしたんですか・・・？」

「ちょっと、用務員室へ来てもらえますか？」

(誰かが彼に暴言でも吐いたのか？ 彼の目の前で

タバコでも吸ってたのか？ あー、やんなっちゃうな。)

「これなんですけど。」



用務員室で彼が指さしたのはタバコの吸い殻ではなくて、きれいにラッピングされた鉢植えのチューリップだった。

「卒業式の日にこれがここに置いてあって、誰かが置き忘れたんだろうと思ってたんですけど、誰も取りにこなくて・・・。よく見たらこんなものがついてたんです。」

小さな封筒に入ったメッセージカードだ。

『おじさんが（名前も知らないんです。ゴメンナサイ）、毎朝校門のあたりを掃除してらっしゃるのを見て、何度も「おはようございます」って言おうと思ったのですが、なんだか恥ずかしくて言えませんでした。3年間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。 3年7組 加藤・長尾』

僕のクラスの女の子だ。涙が出てきた。

「こんなことは、この仕事を始めて以来初めてで・・・、それでお礼の電話でもしたくてね・・・。」

用務員室の小さな窓からさしこむ春のやわらかな朝日を受けて、赤いチューリップはキラキラ輝いて見えた。

(加納高校 村田憲治)